

科目名	精神看護学特論 I	科目区分	専 門	単 位 数	2 単位
	Psychiatric and Mental Health Nursing I				
教 員 名	心光世津子	必修・選択	選 択	開講年次	第 1 学年
				開講学期	前学期
科目概要	精神看護実践上の現象を捉える際に必要な概念や理論、歴史的背景、諸制度等を取り上げ、実践と結び付けながらその意味や実践への応用を探求する。自分の言葉で表現し他者の考えを聞くプロセスを通じ、実践と理論知をつなぐとはどういうことか考察を深め、精神看護実践上の諸課題について各自の見解を示せるようになることを目指す。				
目 標	1 精神医療保健福祉の歴史的背景、現状についてのデータや現行諸制度をふまえて、精神看護のニーズや位置づけを説明することができる。 2 精神看護実践に関連する概念や理論をふまえて、これまでの実践や実践上で遭遇する現象について自身の考えを論じることができる。 3 精神看護実践上の諸課題について、諸概念や理論と実践知を関連付けて自身の考えを論じることができる。				
内 容	1	オリエンテーション 精神の健康と精神看護実践の成り立ち	授業の進め方、対話とは、精神の健康、精神看護学の定義と考え方、基本概念	心光世津子	
	2	精神医療保健福祉の現状	精神医療保健福祉に関連する諸統計及び現行施策の概観、実践上の課題意識	心光世津子	
	3	精神医療保健福祉の歴史①	欧米の精神保健医療福祉の歴史	心光世津子	
	4	精神医療保健福祉の歴史②	日本の精神保健医療福祉の歴史	心光世津子	
	5	精神医療保健福祉を支える法と諸制度	精神保健医療福祉実践の基盤となる法律と諸制度	心光世津子	
	6	疾患・障害の捉え方①	疾患と障害、精神障害とは、ふつうというものさし、精神疾患の診断分類	心光世津子	
	7	疾患・障害の捉え方②	ラベリングとスティグマ、国際生活機能分類(ICF)、医学モデル、社会モデル	心光世津子	
	8	リカバリーとストレスモデル	リカバリーとは、ストレングスとレジリエンス、ストレングスモデル、リカバリー志向の対象理解と看護	心光世津子	
	9	セルフケアと看護①	ケアとは、セルフケアとは、ケアリング、セルフケア理論(オレム=アンダーウッド理論)	心光世津子	
	10	セルフケアと看護②	セルフケア理論による対象理解と看護	心光世津子	
	11	精神看護で用いられる理論①	自我の機能、転移・逆転移、発達理論、対象関係論、愛着理論	心光世津子	
	12	精神看護で用いられる理論②	危機理論、防衛機制、コーピング、二重拘束理論、システムとしての家族	心光世津子	
	13	諸理論を用いた実践の検討①	精神看護実践の事例検討	心光世津子	
	14	諸理論を用いた実践の検討②	精神看護実践の事例検討	心光世津子	
	15	精神看護学の課題と展望	まとめ：精神看護学領域の臨床実践の課題と展望 全体レビュー	心光世津子	
学修方法	1 授業では講義も行うが、プレゼンテーション、対話及びディスカッションに重きを置く。学修したこと、体験したこと、考えたことについて自分の言葉で表現し、他者の考えを聞き、精神看護学領域における課題について考察を深めていく。 2 授業は対話やディスカッションのなかで受講生の理解度を確認しながら進める。 3 授業内容に関する文献等を活用し事前学修をして授業に臨むこと。 4 授業後は、授業中に興味をもった内容、疑問に思ったことについて、複数の文献に触れ、自身の理解と知識を深めること。 5 1 コマあたり、90分以上の事前・事後学修が必要となる。				
評価方法	プレゼンテーション(30%)、課題達成状況(20%)、授業への参加状況(50%)から総合的に評価する。				
教科書・参考書	テキスト：特に指定しない。 参考書：授業中に適宜指示する。各自の疑問、課題に沿った文献や資料は各自で収集、参照する。				
履修上の注意点	大学院生主体で進行するため、各自の学修課題を明らかにして授業に臨むこと。				
オフィスアワー	金曜日 16:30～18:00 C棟 5階 教授室 2				

